

光化学スモッグによる健康被害を防止するために！

全国的に光化学スモッグの発生が増加しています。
被害の未然防止にご協力ください。

光化学スモッグって何？

工場のばい煙や自動車の排出ガスに含まれる窒素酸化物(NOx)、揮発性有機化合物(VOC)などが、太陽の紫外線を受けて化学反応を起こすと『光化学オキシダント』と呼ばれる物質が発生し、大気が白くモヤがかかったようになります。この状態を『光化学スモッグ』と呼んでいます。

光化学スモッグが発生すると、目がチカチカしたり息苦しくなる場合があります。特に、子供や気管支などに疾患がある人が屋外で活動している場合に影響が出やすいといわれています。



光化学スモッグはいつ発生するの？

光化学スモッグの発生は、気象の影響を強く受けます。

右の気象条件となる4月から10月にかけて発生しやすく、特に7月から8月にかけては注意が必要になります。

光化学スモッグが発生しやすい条件

- ① 気温が高い。
- ② 日差しが強い。
- ③ 風が弱い。

私たちは光化学スモッグの発生をいつ知ることができるの？

愛知県では、光化学オキシダントを始め大気汚染物質等の測定を行っています。

光化学オキシダントが高濃度となったときには、『光化学スモッグ予報』や『光化学スモッグ注意報』などを発令します。

県民の皆さんには、県のウェブページ、光化学スモッグ情報メール配信サービスや市町村、新聞、ラジオ等を通じてお知らせしています。

○光化学スモッグ発令状況

愛知県 <http://taiki-kankyo-aichi.jp/kanshi/hatsurei/index.html>

そらまめ君 <https://soramame.env.go.jp/oxymap>

光化学スモッグ予報等の発令基準

発令区分	発令基準
予報	オキシダント濃度が 0.08ppm 以上 となり、かつ、 気象状況からみて注意報以上の状態が発生することが予想される時
注意報	オキシダント濃度が 0.12ppm 以上 となり、かつ、 気象状況からみてその状態が継続すると認められる時
警報	オキシダント濃度が 0.24ppm 以上 となり、かつ、 気象状況からみてその状態が継続すると認められる時
重大警報	オキシダント濃度が 0.40ppm 以上 となり、かつ、 気象状況からみてその状態が継続すると認められる時

予報や注意報、警報が発令されたらどうすればいいの？

屋外での激しい運動は避けましょう。
体調の悪い人は室内で休みましょう。
風向きを考えて窓を閉めましょう。

被害の未然防止が
最も

大切

です。

被害が発生したらどうすればいいの？

○適切な措置

- 1 屋外での**運動は中止**してください。
- 2 症状に応じ**うがい**や**洗眼**をしてください。
- 3 室内に入り、窓を閉めるなど**外の空気が入らない**ようにしてください。
- 4 **症状が改善しない場合は、直ちに医師の手当**を受けてください。

○最寄りの保健所、県民事務所等への連絡

【連絡事項】

- 1 被害発生時間
- 2 被害発生場所
- 3 被害を受けた人の状況（人数、年齢、性別など）
- 4 主な症状（のどの痛みや目がチカチカするなど）
- 5 被害発生時の状況
- 6 措置の状況（医師の受診の有無）



〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
環境局環境政策部水大気環境課大気調査・補償グループ
電話 052-954-6216（直通）
保健医療局生活衛生部
生活衛生課環境衛生グループ
電話 052-954-6299（直通）
URL <https://www.pref.aichi.jp>（共通）